

# 和光市総合振興計画審議会第5回会議（全体会）会議要旨

開催日：平成27年11月16日（月）午後1時30分～4時20分

開催場所：和光市役所議事堂3階全員協議会室

出席者：花輪宗命会長、泉常夫副会長、荒木保敏委員、松田廣行委員、金子正義委員、  
野宗玲子委員、鷹咲子委員、長野基委員、宍戸博委員、藤川和孝委員、  
松永靖恵委員、板垣隆夫委員、佐藤嘉晃委員

欠席者：森田圭子委員、柴崎幸夫委員、山田智好委員、富岡健治委員、深野威委員

事務局：山崎部長、川辺課長、前島課長補佐、工藤主査、遠藤主事

傍聴者：1名

次第：1 開会

2 議事

(1) 第四次和光市総合振興計画基本構想中間見直し案について

(2) 答申について

3 その他

4 閉会

## 1 開会

## 2 議事

花輪会長： 本日の会議の流れについて、事務局から説明をお願いします。

事務局： 本日の会議では、資料1「第四次和光市総合振興計画基本構想中間見直し（素案）①第1部～第2部第3章」について、修正した箇所を中心に概要を説明させていただき、その後、ご審議を賜りたいと存じます。

資料2「第四次和光市総合振興計画基本構想中間見直し（素案）②第2部第4章（施策内容修正シート）」は、施策1から施策77の具体的な修正案となります。また、資料3「審議会の意見に基づく「第四次和光市総合振興計画基本構想中間見直し（素案）」の修正点」は、各部会で挙がったご意見について、中間見直し案へ反映したもの、中間見直し案へ反映しなかったもの及びその理由を一覧としたものです。資料2及び資料3については、本日審議は行いませんが、ご意見等ございましたら、11月20日（金）までに事務局までご連絡をお願いいたします。

また、平成26年度に前倒しで見直しを実施した10施策のうち、施策4、施策32、施策37、施策38、施策42の5施策については、指標の現状値以外の見直しは予定していなかったため、審議対象外としましたが、審議会の中でいただいた「3-2 平成27年度の現状」については全施策に入れるべきではな

いかとのご意見を踏まえ、この5施策についても見直しを行っております。こちらにつきましても、ご意見等がございましたら、11月20日（金）までに事務局までご連絡をお願いいたします。

ご意見については花輪会長に報告し、取り扱いについて調整を行います。

最後に、「第四次和光市総合振興計画基本構想中間見直し」については、今後、パブリックコメント等を経て、平成28年3月定例会に議案として上程する運びとなっております。本日の審議会の審議内容等を踏まえ、取りまとめた後、審議会として市長へ答申を行いますので、答申内容について審議を賜りたいと存じます。

### (1) 第四次和光市総合振興計画基本構想中間見直し案について

花輪会長： それでは、審議に入ります。審議内容は、広範多岐にわたっておりますので、3つに区切って審議を行います。初めに、第1部「第四次和光市総合振興計画に策定に当たって」第1章「総合振興計画の概要」について審議を行います。

事務局より、資料1（1ページから9ページ）に基づいて説明。

花輪会長： それでは、事務局が作成した素案に対して、不足している事項や改善提案などがあればご意見をいただきたいと思っております。ご意見・ご質問等はございますでしょうか。

佐藤委員： 4ページの「総合振興計画と個別分野計画の関係」について質問です。「計画」と「プラン」はどのように使い分けているのでしょうか。

事務局： 個別の計画やプランはそれぞれの所管課で策定しています。名称を計画とするか、プランとするかについても所管課の判断となります。

佐藤委員： 名称は法律に基づいているのかと思いましたが、特にルールがないのであれば、使い分けるよう改善していただきたいです。計画、プラン、その他に指針、ビジョン、ガイドラインなどがありますが、きちんと説明がないとそれぞれの重みが分からないため読み手は混乱してしまいます。

事務局： ご意見のとおり都市計画マスタープランなど、国や県の上位計画の名前に準じているものもありますが、それ以外は所管課において決めています。

佐藤委員： これらの個別の計画は、総合振興計画の77施策に位置付けられる重要なアクションプランです。統一のルールが必要であると考えますが、ないのであれば疑問として挙げられたときに説明できる体制を整えていただきたいです。

鷹委員： 市民が見ると分かりにくいというのは、もっともだと思います。9ページのPDCAサイクルに補足として、計画、プラン、方針などの意味をコラムとして追

加してはいかがでしょうか。

宍戸委員： 国や県との整合性もあり、計画やプランそれぞれの重みを統一して示すのは難しいと思います。私の研究機関にも、チャレンジ目標として掲げるものから確実に達成すべきものまでいろいろな意味を持たせた計画があります。市民にとっては、計画とプランの重みの違いではなく、その計画が理念として掲げているものなのか、達成必須のものなのかの方が大切で、その点について明確にすれば十分だと思います。

事務局： ご意見については、検討材料にさせていただきます。現状としては、計画とプランを同じ重みで使っているものもあり、統一するのは難しい状況です。上位計画に定められたものや何十年間も使用してきて市民にも浸透しているものもあり、計画の名称を変更することはできません。4ページでは、個別計画が総合振興計画にどのように位置付けられているのか、その実態を掲載したものとして見ていただきたいと思います。

泉副会長： 佐藤委員のご意見については、今の事務局の回答のように説明ができるのであれば問題ないと思います。

花輪会長： それでは、事務局に検討していただくということによろしいでしょうか。

(一同了承)

花輪会長： その他に、ご意見はございますか。

板垣委員： 4ページの「総合振興計画と個別分野計画の関係」に、図書館サービス計画のように掲載されていない計画があります。どのような基準で掲載されていないのでしょうか。

事務局： 市にはその他にも様々な計画がありますが、ここでは所管課において選ばれた主な計画を掲載しています。

花輪会長： よろしいでしょうか。

板垣委員： 図書館サービス計画は、「その他」に分類されるような計画ではなく、ここに記載すべきだと思います。

佐藤委員： 3ページの「計画の特徴」(4)について、最後の行「また、中間見直しにおいても…市民の声を取り入れたものとしています。」は、上の文章と重複するため不要だと思います。

事務局： ご意見のとおり、計画そのものを見直す作業であるため、該当の文章については削除します。

花輪会長： その他に、ご意見はございますか。

それでは、次に進みます。

第1部第2章「総合振興計画策定の前提」について、事務局から説明をお願いします。

事務局より、資料1（10ページから23ページ）に基づいて説明。

花輪会長： 事務局の説明について、ご意見・ご質問等はございますでしょうか。

佐藤委員： まず、11ページ「和光市の特徴」の(1)の2つ目の●(黒丸)について、「埼玉県と和光市の比較」はグラフの見出しを指しているのに、「和光市と埼玉県の比較」に修正してください。

事務局： 修正します。

佐藤委員： 次に、12ページ(2)について、文章と表が対応していないため、美しくありません。文章では40市と記載しているにもかかわらず、表では20市までを掲載しています。

続いて、13ページ(3)の文章で、昼間流出人口が多いにもかかわらず、労働力の受け入れ口となっているとあり、意味が分かりにくいです。

花輪会長： 少しよろしいでしょうか。多くの指摘事項があるようですので、15ページまでに区切って見ていきたいと思います。

事務局、いかがでしょうか。

事務局： 12ページ(2)については、見直しを検討します。

次に、13ページ(3)についてですが、趣旨としては市外に労働に行っている人が多いという意味で記載しています。

鷹委員： 最近では「労働力の受け入れ口」という表現は使われないので、見直しはいかがでしょうか。

事務局： 昼間に都内へ通勤・通学する人が多く、ベッドタウンになっているということを表示したかったのですが、全体的に見直し、分かりやすい表現に修正したいと思います。

佐藤委員： ベッドタウンということであれば、市に関心があるか、ないかは記載する必要はないと思います。再度検討し、見直しをお願いします。

佐藤委員： 続いて、14ページ(4)ですが、3つ目の●(黒丸)の段落だけ、「前回の市民意識調査、今回の市民意識調査」という表現をしています。上の段落とそろえて「平

成21年度の市民意識調査、平成27年度の市民意識調査」としてください。

事務局： 修正します。

鳧委員： 14ページ(4)だけではなく全体的にですが、各グラフの出典元を明記した方がいいと思います。

花輪会長： 事務局には修正を検討していただきますようお願いします。

花輪会長： その他に、ご意見はございますか。

佐藤委員： 11ページから17ページの(1)～(4)及び(6)と比較して(5)だけタイトルのトーンが違います。作った人が違うのかもしれませんが。バランスが悪いのでそろえる必要があると思います。

花輪会長： (5)については、「・・・見込まれる」で終わるという表現に修正すれば、その他のタイトルと統一できるのではないのでしょうか。

事務局： 見直しを検討します。

佐藤委員： (5)については、歳入についての文章はありますが、表がありません。抜けてしまっているのではないのでしょうか。

事務局： 修正します。

花輪会長： その他に、ご意見はございますか。

金子委員： 言葉の使い方ですが、12ページの(2)②「外郭環状道路が形成されています」となっていますが、正しくは「外郭環状道路により形成されています」となります。修正をお願いします。

次に、15ページに公債費が増加傾向にあると書かれていますが、16ページの表では増加傾向を読み取ることができません。

花輪会長： ご指摘のとおりです。いかがでしょうか。

泉副会長： 平成25年度から平成26年度にかけては、増加しています。

佐藤委員： しかし、1年だけで増加傾向といえるのでしょうか。

事務局： この表にはまだ掲載していませんが、下新倉小学校建設事業によって平成27年度の借金は確実に増えています。その旨は、文章の中で説明しています。

佐藤委員： 要するに、和光市は国の基準を下回っていて財政力が高いのに、なぜ財政状況が悪化しているのか、その説明が必要です。グラフが多すぎるために、分かりにくくなっています。重要なものだけを整理して掲載すべきではないのでしょうか。

鳧委員： 今回の総合振興計画の見直し作業では、文章は文章、グラフはグラフで差し替えられていることが原因だと思います。確かに16ページの公債費のグラフから

は、増加傾向を読みとることはできませんので前の年次を入れるなどの工夫、また、変化を見せたかったのかもしれませんが、縦軸が0からスタートしないのはあまりよくないので、その点を修正してはいかがでしょうか。数字だけを機械的に置き換えるのではなく、文章に合わせて構成するという意味です。

事務局： ご意見を参考にして、見直しを検討します。

長野委員： 少し戻りますが、11ページ(1)右のグラフは平成20年のデータとなっておりますが、今回の見直しで上程されるのは平成28年となるため、直近のデータで作成すべきだと思います。また、「和光市と埼玉県の比較」のグラフは比率(%)で記載しています。絶対値で比較するのとは意味合いが変わってくるので注意が必要だと思います。

次に、13ページ(3)の3つ目の●(黒丸)について、単身世帯の比率について約40%とあります。データソースが不明ですが、この数字が正しいならば、和光市には自衛隊の官舎があることを考慮すると、特におかしくないのではないかと思います。わざわざ数字を出すということは「みんなで問題を考えよう」という意味だと思いますが、その対象が自衛隊の方であるならば、意味がないと思います。

最後に15ページでは、歳出の説明で扶助費、公債費、建設事業費の増加について書かれていますが、最後の段落でも福祉関係費や公債費が増加していると書かれています。同じことを指しているのか、違うのかも不明で、これを読む市民にとっても分かりにくいので、きちんと説明すべきだと思います。

花輪会長： まず、11ページ(1)のグラフに対するご指摘ですが、事務局の方で最新のデータに修正していただくということによろしいでしょうか。

事務局： 修正します。

花輪会長： 続いて、13ページ(3)の単身世帯に関する記述ですが、事務局、いかがでしょうか。

事務局： 当市の特徴としては、ご指摘のとおり自衛隊の官舎もありますが、コミュニティが不足しているという点が挙げられます。ワンルームマンションも多く、単身世帯が多いことが地域への興味の有無という話につながると表現したかったのですが、今回の見直しは全部新しくするのではなく、現行の基本構想を修正しております。そのため、部分的に直して、その結果つじつまが合わないところが出てきてしまいました。分かりやすくまとめられるように、修正をいたします。

花輪会長： 続いて、15ページの財政関係についてはいかがでしょうか。

事務局： 子育ての施策などの2つの施策があり、扶助費及び公債費が増加しているため財政が苦しいということを伝えたかったのですが、分かりづらいという指摘を受

けましたので、バランスよく表現できるように見直します。また、多くの財政関係の図表を掲載していますが、直接関係のないものは削除し、文章に関係のあるものだけを掲載します。

花輪会長： それでは、細部まで再検討して修正していただくようにお願いします。

佐藤委員： 基本構想は白書的なものであるため、市はこういう風に認識しているよということが伝わればいいのだと思います。私たちが言っているのは整合性がない部分を修正してほしいということです。

長野委員： 追加で申し上げますが、11ページ(1)の10年間の変化についてはいつからの10年間なのかを書いた方が分かりやすいと思います。

花輪会長： 様々なご意見をいただき、ありがとうございました。今のご指摘を踏まえ、矛盾のあるところを中心に見直しをお願いします。

事務局： 承知しました。「和光市の特徴」というタイトルですから考えを入れると分からなくなってしまうので、あくまでも現状がどうなっているのかを書いていきたいと思います。

花輪会長： よろしくをお願いします。

花輪会長： その他に、ご意見はありますか。

松田委員： 全体的な話です。この文章は非常に読みにくいです。「おいては」という言葉は使うものではありません。また、60文字も句読点のない部分があり、通常は17文字で区切るものです。一度新聞社の人にチェックしてもらってはいかがでしょうか。市民はこのような文章は読めません。以上です。

泉副会長： 文章の校正をお願いしますということでまとめてよろしいでしょうか。

花輪会長： それでは、一般の方にも分かりやすいように校正していただくよう、要望としてよろしくをお願いします。

花輪会長： その他に、ご意見はございますか。

佐藤委員： 19ページ「人口推計」に「特殊社会要因による影響を考慮」とありますが、これは人口の増加と減少のどちらに影響するのでしょうか。また、(2)の開発人口とは、どういう意味でしょうか。

事務局： 特殊社会要因は、人口の増加に影響します。一般的な人口推計は、人口構成や女性の人口から予測しますが、和光市は区画整理事業を実施しておりますので、それが特殊な要因として影響します。例えば住宅地の開発では1ヘクタール当たり100名の人口の増加が見込まれます。

続いて、開発人口についてですが、区画整理などの開発に伴って市外から流入

する人口を指しています。

佐藤委員： 分かりにくい言葉なので、変えた方がいいのではないかと思います。長野先生、このような言葉は一般的に使われているのでしょうか。

長野委員： 青写真をたてる時には見ることはありますが。

花輪会長： 「開発人口」を「開発による人口」に修正してはいかがでしょうか。

事務局： 現在作成している人口ビジョンを基に作成しておりますので、確認し、言葉を修正するもしくは注釈を加えるなどの対応を検討します。

花輪会長： よろしくお願ひします。

佐藤委員： 追加で提案します。19ページの人口推計は5年前の策定時は8万9千人でした。今回の見直しで8万人、つまり約1割減ってしまったことについて反省が必要だと思います。また、市のホームページを確認すると現在の人口は約8万人ですが、ここでは7万9千人と記載されています。推計が粗すぎるのではないかと思います。コメントを追加する、もしくは内容を補正してはいかがでしょうか。

事務局： 平成27年1月1日の人口は正しいものを記載しています。当市では5つの区画整理を行っており、策定時は開発による人口が順調に増加すれば8万9千人になるという予想でした。今回の中間見直しでは、最新のデータで公共施設白書の人口推計の考え方に準拠して作成し直しました。その結果として減ったということです。

佐藤委員： 数字が合っているとか合っていないという話をしているのではなく、1割も数字が違うのであれば、そのことについて何か説明があってもいいのではないかという意見です。この審議会の委員が納得できなければ、市民を説得することもできません。市にはきちんと説明する責任があります。

松田委員： 人口推計は若い人の数で予測します。和光市は特に団地の空き家が多くなっており、若い人は東京へ出てしまうので、1万人減ったというのは正しい推計に近づいたということだと思います。それよりも、細かい数字を並べている点が気になります。四捨五入して分かりやすく表示すべきだと思います。

藤川委員： 人口推計が1割減ったことについては、空き家の問題、宅地開発及び開発による流入人口など様々な要因があると思います。質問されたときにきちんと説明できるようにしておいていただきたいです。

花輪会長： 人口推計の背景などの補足説明を加えてはどうか、また、数字をあまり細かく表示しなくてもいいのではないかというご意見でしたが、事務局、いかがでしょうか。

事務局： 現段階の素案では、基本構想を最新の情報に置き換えただけになっているため、8万9千人という数字だけを出した形になっています。前段の部分に、減少した



理由について説明を加えたいと思います。

花輪会長： よろしくお願ひします。

松田委員： 戻りますが、18ページ「第四次総合振興計画基本構想の進捗状況」に、市内の卸売・小売の販売額が減少しているとあります。5年前より人口が増えているにもかかわらず、下がるのはおかしいのではないかと思います。

花輪会長： お客さんが大型店に流れているという解釈でいいのではないかと思います、いかがでしょうか。

長野委員： 和光市に大型店が進出しているという解釈でいいのか、文章がよく分かりません。

松田委員： 最近は通販も増えて、お店の販売額は減っていると聞きます。その影響もあって、大きな郵便局ができたのです。

花輪会長： この文章については、意味が伝わるように見直しをお願いするということでしょうか。

金子委員： このページは表現が非常に難しいとは思いますが、すべての施策に対して「おおむね順調」と書くことが適切かどうか、疑問です。順調ではない施策もありますので、書きにくいとは思いますが、再度検討をお願いしたいというのが私の意見です。

花輪会長： 確かに、1段落目には「基盤整備の一部については遅れが見られるものの・・・」とありますので、「遅れが見られます」とした方がいいかもしれません。

野宗委員： 対応する旧基本構想のすべての段落の末尾を「おおむね順調」に置き換えた形のように、一般市民が見ると自己評価が高いという印象です。バランスを考慮して、段落ごとに課題などを書き、最後の部分でまとめて「おおむね順調」と書けばいいのではないかと思います。

泉副会長： 総括で書くべきということですね。

野宗委員： そうです。いかがでしょうか。

事務局： 分かりました。

花輪会長： よろしくお願ひします。

花輪会長： 次に、21ページの財政に関する内容について、ご意見はございますか。

佐藤委員： 施策71と和光市健全な財政運営に関する条例の方向性がずれている気がするのですが、どちらを先に作成されたのでしょうか。

事務局： 施策71の中で和光市健全な財政運営に関する条例を作成しました。さらに、条例の中で、中期財政計画を各年度作成するように取り決めています。

佐藤委員： 総合振興計画のP D C Aサイクルの中で和光市健全な財政運営に関する条例を作り、中期財政計画で運用しているイメージでよろしいでしょうか。

事務局： 中期財政計画については、方向性としては毎年出していましたが、条例できちんと示したということです。借金や支払いについても条例の中で決めています。

佐藤委員： それでは、和光市行政経営方針はどのような位置付けでしょうか。

事務局： 総合振興計画基本構想の次に実施計画を策定するときに、行政評価を経て行政経営方針を作成しています。

花輪会長： その他に、ご意見はございますか。

金子委員： 参考意見として申し上げますが、和光市は人口が増えていくという推計ですが、高齢者の増加についての影響も考慮すべきではないかと思えます。

花輪会長： 歳入の記述では言及していますが、歳入の記述では人口の年齢構成についての言及がないようですね、いかがでしょうか。

事務局： 考え方としては理解しておりますが、収入は前年度からの伸びを考慮して計算しています。歳入に高齢化を反映させる計算方法がないため、数字として掲載するのは難しいと考えています。

金子委員： 細かい計算でなくても、財政支出の見通しということであれば少し記載してもいいのではないかと思います、参考意見として発言しました。以上です。

佐藤委員： 和光市の平均年齢は何歳ですか。

事務局： 約40歳です。

佐藤委員： 国の平均が約46歳ですから、和光市は国よりも5歳くらい若いですが、また、和光市の転出入が8千人前後で、10年間で全市民が入れ替わる勢いです。そうすると、和光市民って一体誰だろう、和光市が好きで引っ越してきた人なんていないのではないかと思います。高齢者福祉が先進的であることについて、全国に比べたら若いまちだから費用がかからないから当たり前だという意見にどのように反論していくのか、和光市の個性を出してもう少し緻密にやっていっていただきたいという提案です。

花輪会長： ご提案ということですが、事務局のご意見はありますか。

事務局： 現在策定しているまち・ひと・しごと総合戦略では、他の市とは違う施策、つまり高齢者の施策ではなく、子育て、ファミリー世帯に向けた施策を考えております。

泉副会長： すでに予定時刻の2時間を経過していますので、審議を早めに進められるようによろしくをお願いします。

花輪会長： 限られた審議時間となりますので、そろそろ次の第2部に進みたいと思いますが、その他にご意見はございますか。

長野委員： 21ページ「財政状況の今後の見通し」について、230億円は一般会計のみ、特別会計は後半に繰出金として書かれているだけです。特別会計は健全化されているのだと思いますが、介護や水道などの枠組みがたくさんあるので、そのことについて何らかの言及があってもいいのではないかと思います。

事務局： 現在、特別会計が4つ、企業会計が上下水道の2つと多くなっているため、すべてを掲載するのは難しいと考えます。また、他市とのバランスもあり、一般会計とまとめることもしておりません。一般会計から特別会計へ繰出については「繰出金」として計上しています。その他は、各特別会計の中で収入や保険で賄っており、自治体によって保険も異なることから、一般会計には入れていません。

また、補足ですが、平成28年度から新公会計制度で簿記会計を導入しますので、ある程度の資産評価や比較は入れていくべきと考えています。

花輪会長： ありがとうございます。後ほど、文章で追加意見を提出していただくこともできますので、第1部はここで終了とさせていただきます。次に進みます。

花輪会長： 続いて、第2部「基本構想」第1章「和光市の目指す姿」から第3章「施策の体系図」について審議を行います。事務局から説明をお願いします。

事務局より、資料1（24ページから29ページ）に基づいて説明。

花輪会長： 第2部について、ご意見はございますか。

佐藤委員： 提案があります。29ページの施策の体系図ですが、担当課を表示してはいかがでしょうか。市民から見ると、どこで誰が何をやっているのか不明な部分があります。特別なことをしなくても、従来からある施策について、きちんと進めていけばいいのではないかと思います。

事務局： 各施策に担当課を掲載していますので、体系図に追加することについてはスペースの関係もありますので検討いたします。

佐藤委員： 後半の各施策には担当課の記載はありません。追加については、前向きにご検討いただければと思います。

また、体系図のV-iiについて、「良好な市街地の整備」とありますが、「行財政改革の徹底」であるはずですが。

事務局： ご指摘のとおりです。修正いたします。

花輪会長： よろしく申し上げます。

その他にご意見はございますか。

それでは、資料1についての審議は以上とします。

## (2) 答申について

花輪会長： 答申について、事務局から説明をお願いします。

事務局： それでは、資料4「第四次和光市総合振興計画基本構想の中間見直しに関する答申について」をご覧ください。

先ほども説明させていただきましたが、「第四次和光市総合振興計画基本構想中間見直し」については、今後、パブリックコメント等を経て、平成28年3月定例会に議案として上程する運びとなっております。そのため、本日の審議会の審議内容等を踏まえ、取りまとめた後、審議会として市長へ答申を行います。

答申の内容については、本日の会議の資料1及び資料2を1つにし、体裁を整えた上、本日の審議会で出された意見等をまとめたものを第四次和光市総合振興計画基本構想中間見直し（素案）としたいと考えております。そして、資料4に素案を添付して答申としたいと事務局では考えております。

花輪会長： 答申の内容について、事務局から案として説明がありました。この案で答申書をまとめるということでしょうか。何か質問や修正などの提案はありますでしょうか。

宍戸委員： 今回は2011年から2020年の10年計画の中間見直しということですが、第3次を終え第4次を策定したときに大きく変えたところについて、評価する必要があるのではないのでしょうか。あえて言及していないのでしょうか。

事務局： 総合振興計画は10年計画であるため、第4次総合振興計画の評価は第5次総合振興計画を作成するときに評価していきたいと考えています。

宍戸委員： 産業振興について、第3次の計画では単独で大きな柱として掲げられていましたが、第4次では基本目標Ⅳ「安らぎと賑わいある美しいまち」として、生活・環境・産業としてまとめて進めていくという位置付けに変更されています。このように、大きな柱を変えた場合には何らかの検討が必要であると考えます。現状としては、今後5年間で遅れを取り戻せる程度に達成しているため、今後5年間もこの基本目標に従って進めるということだと思っておりますが、今回は大きく見直す必要はないという意思表示がどこかにあってもいいのではないかと思います。

佐藤委員： 私もご意見に賛成です。

暗黙の了解で5年前に策定した計画は「おおむね達成」だからマイナーチェンジでいいとされています。昨年まで、外部評価は内部評価の評価ということでやってきましたが、今後はストレートに見ていくのがいいのではないかと思います。

宍戸委員： 私が申し上げているのは77の施策ではなく、もっと大きな柱についてです。

泉副会長： 柱が1本減ったことに対して、どうだったかという評価があるといいのではないな

いかという提案だと思いますが、いかがでしょうか。

宍戸委員： 産業という言葉が基本目標Ⅳ「安らぎと賑わいある美しいまち」の一部に入り込んだことによって、この5年間でどのように認識され、進捗したのか、大きな柱にしておけばもっと進んだ可能性もあると思います。評価は、今後の施策の推進に当たり、意識しておくべきポイントだと思います。

事務局： 第3次には総合評価を何度も実施して、第4次総合振興計画を策定しました。策定時に5年後の中間年に見直しをしておりますが、大きな柱は変更しないという前提で見直しをしています。

産業については、今後形が変わっていくことも想定されますが、課題をきっちり見極めつつ今の枠組みで取り組んでまいります。

大きな柱である基本目標については、10年間は変更しません。今回の見直しは施策の範囲内で実施しますのでよろしくお願いいたします。

花輪会長： よろしいでしょうか。

宍戸委員： 分かりました。

花輪会長： その他に、ご意見はございますか。

金子委員： 参考として意見を申し上げます。これまで審議会では、施策の内容について議論してきましたが、課題、取組や指標がバラバラで、中には取組に対して対応する指標が全くないものもあります。それに対して外部から評価するのは非常に難しいです。今後計画を作るときは、注意していただきますようお願いいたします。

花輪会長： ありがとうございます。事務局には参考にしていただきますよう、よろしくお願いいたします。

花輪会長： 以上で本日の議事を終了いたします。

### 3 その他

事務局： 本日は、長時間にわたり、ご審議ありがとうございました。

それでは、3点ほど事務連絡をさせていただきます。

本日の会議の会議要旨については、事務局で作成し、後日、皆さまにご確認いただきますのでよろしくお願いいたします。本日も審議いただきました結果を受け、答申書を作成し、12月に、花輪会長と泉副会長に代表していただき、市長へ答申する予定です。答申書につきましては、委員の皆さまに郵送いたします。基本構想中間見直しについては、12月のパブリック・コメントを経て、3月に議案として提出する予定です。基本構想（改訂版）は、来年度4月以降となりますが、委員の皆さまに郵送いたします。

最後になりますが、今年度の審議会については、本日を持ちまして終了となります。企画部長の山崎より一言、あいさつを申し上げます。

山崎部長： 委員の皆様には、第四次和光市総合振興計画の中間見直しに際して、長時間ご熱心にご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。

この見直しは、庁内においては、ワーキングチーム、課長級で構成される検討委員会、部長級で構成される中間見直し委員会の3層構造で作業を進めてまいりました。また、本審議においても、外部からの視点で活発なご討議をいただきましたこと、改めて感謝を申し上げます。

本日皆様のご意見を伺い、市民に分かりやすいようまとめていくことが、最も基本となると認識いたしました。素案については、至らぬ点多々あったかと存じますが、審議会のご意見を参考とさせていただき、修正してまいります。

本日をもって予定していた審議を終了し、今年度で皆様方の任期は満了となります。来年度の総合振興計画審議会においては、計画の進行管理の一部となる外部評価の手法等について検討していく予定であり、和光市の将来都市像「みんなでつくる快適環境都市わこう」の実現を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、今後の皆様の各分野でのご活躍をご祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局： それでは、これにて平成27年度和光市総合振興計画審議会第5回会議を終了します。ありがとうございました。

#### 4 閉会